

十五年前のこと。野茂英雄がノーヒットノーランを達成したころのレッドソックスの本拠地ボストン。私が所属していたマサチューセッツ工科大学(MIT)の研究所に米郵便公社(USPS)が五

## 窓のそとは、森

### ⑨使いこなすのは人だよ

慶應義塾大学大学院  
メディアデザイン研究科教授

中村 伊知哉



億円を抛出して、郵便の技術を共同で開発するという発表があった。郵便物にチップを埋め込んで、今どこにそのチップがあるかを追跡できるようにする。世界の郵便システムは似たようなものだ。新技

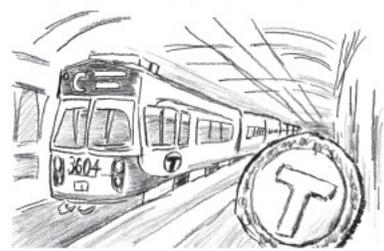
術を握れば、世界征服できる。USPSの担当はそう胸を張った。こりゃー大変だ。日本の郵便局

もそんな技術に資金を投じたらどうか?でも当時、郵便局を民営化するのしなのでタバタについて、「それどころじゃねーんだよ」という返事が東京から返ってきた。そりゃー大変だ。

そのころ自宅で取っていた新聞は、USPSが配達していた。道から玄関に毎朝ぼーんと放り投げる。おいおい、もうちょつとていねいにやれや。日本の郵便局はそんな乱暴な仕事はせんぞ。技術があっても、人に問題があるんちゃうか、アメリカ。新しい技術を生んでも、人が使えんならあかんのちゃうか、アメリカ。と思った。

当時ボストンの地下鉄は、一ドル二十五セントで一枚コインを買って、それを入り口に差し込むと、手動のドアでホームに入れ、どこへでも行けるというシンプルなもの組みだった。どんなに頭が悪くても使える、とても古いシステム。

日本の地下鉄は、複雑に路線が乗り合わせ、料金も区間ごとに複雑だけど、〇・二秒ごとに計算し



てドアをあつちからもちから自動開閉するちょー高度な仕組み。とてつもなく高度

な技術を使っている。機械も立派だが、それを当たり前のように使いこなしている人、というか社会がすごい。技術が光るのは、使いこなす人がいてこそ。

そのころMITの教授陣が日本に出張して帰国するたび緊急集会が開かれた。東京では女子高生がケータイで親指でメールを送っている。とてつもなく高度な人種が現れた。という報告会だ。今でこそスマホで世界中の人がネットを使うようになったが、当時、ケータイでネットを使っているのは日本ぐらいのものだった。

本も読まずケータイばかりいじくる連中に、日本の大人はしかめっ面をしていたが、デジタルの最先端技術を開発するアメリカの権

威からみると、それを最先端に使いこなすのは渋谷や池袋の女子高生だったのだ。

そのころ彼女たちは、ギャル文字という、彼女たちだけが解読できるケータイ用の文字を開発し、発信していた。平安時代の女性たちは、漢字を無理やり仮名文字に変えて、女流文学で世界文化の先端にあった。千年たつて、平成の女性たちは、ケータイ文字で世界文化の先端にあるのだ。

日本人がネットで発信するデータ量は世界平均の五倍で、ダントツの世界一だという。技術を使いこなして、コミュニケーションする力に長けている。この国の人々は、自分たちが考えているよりも、案外スゴいんじゃないか、ニッポン。と思う。

プロフィール 一九八四年郵政省入省。橋本行革で省庁再編に携わったのを最後に退官し渡米。一九九八年MITメディアラボ客員教授。二〇〇二年スタンフォード日本センター研究所長。二〇〇六年より慶應義塾大学教授。社団法人融合研究所所長などを兼務。著書に『コンテンツと国家戦略』(角川Panorama選書)など多数。